

## トイレで見つけた研究テーマ

マルタ・シチギェウ（ポーランド）

私は始めて日本に来たのは2010年の夏です。ジャパン・リターン・プログラムというプログラムに参加して、ポーランド代表に選んでいただきました。そのときおよそ一ヶ月にわたって東京・福岡・長崎にホームステイしました。

人生初の来日ということで、まったく異なる文化で育った私が見たすべてが新鮮でした。家へ入る前に準備しておいてあるスリッパに履き替えること、箸で食べること、布団で寝ること…子供みたいにすべてにわくわくしました！振り返ってみると、とても懐かしく思います。今は日本での生活に慣れてきて、最初にあったわくわく感が殆どなくなりましたが、未だに当時と同じように私をびっくりさせる日本文化のある特徴があります。

北九州にあるTOTOの工場見学しに行ったときのことです。目的は日本企業のやり方を理解するということだったようですが、私のグループがみんな世界で有名な日本のハイテクトイレの話聞くのを一番楽しみにしていました。

まず、TOTOの社員二人にTOTOのやり方、目的、社会貢献などについて説明していただいて、素晴らしい企業だと思いました。そのあと、TOTO歴史資料館へ行って、展示物を見ながらトイレの歴史を勉強しました。感動いっぱいの日が終わるかと思ったら、出口のところでサプライズが私たちを待っていました。

先ほどの社員二人がテレビをつけて、ビデオを流しました。目の前で現われたのは…うんこ。

「T O T O トートー便器

T O T O トートー便器

流せ、流せ、流せ、流せ

流せ、僕らのTOTO便器

でっかいうんち、ちっちゃいうんち

お尻を拭いたその紙も！」

と、アニメキャラクターのうんこと共にトイレと女の子が踊りながら歌っていました。外国人の私たちが、どちらかという、少し恥ずかしがりながら「便器の歌」のビデオを見ていました。しかし、それはすべてではありませんでした。二回目に曲が流れ始めると、あの40代のサラリーマンがうんこと一緒に振り付けしながら歌いだししました！

な、な、なにそれー？！

周りの様子からすると、ショックを受けたのは私だけではありませんでした。ポータランドでは、いや、多分欧米では排泄が完全なタブーになっているといっても過言ではありません。それに対して、まじめというイメージのある日本人が目の前で「でっかいうんち流せ」と歌っています。どういうこと？！

TOTO見学のあと、目が覚めたかのように、日本のどこにもうんこが見えるようになりました。

糞の形をしたストラップやキーホルダー・ろうそく・チョコレートなどが普通に買えます。(私もたくさん持っていますよ！)

ポップカルチャーでは排泄は禁制の話題ではなくて、例えば関西テレビで2009年に放送されていた『うんこさん』のような、糞がメインキャラクターになるアニメまでもあります。また、テレビっ子の私がよく見るバラエティ番組では排泄の話がよく取り上げられています。最近見た便秘解消体操をしているタレントの鈴木奈々の「出ちゃう〜」が悪夢にも出てきます…

便秘といえば、便秘と下痢の薬のCMが数多くあります。きれいなお姉さんが「すっきりした！」とニコニコして言いますし、イケメンのサラリーマンがピンチから救われて、会議で完璧な発表します。

大学生のときに見た、日本の CM に使いそうなシーンがあったことを思い出します。ある日、日本人の先生の顔色が悪くて、クラスの一人が「先生、大丈夫ですか？」と聞くと、その京都出身の上品な美人は「あ、今日は下痢です。しかし、薬を飲みましたので、大丈夫ですよ」と答えました。ショックでした…

排泄のテーマがテレビにだけでなく、文学にも浸透しています。現在世界中に注目を集める村上春樹の本、例えば『ねじまき鳥クロニクル』を読んでも排泄行為の記述が1ページにもわたります。また、注目すべきなのは、近年人気を得ている子供への排泄訓練の最初の絵本が日本で出版されたということです。それは五味太郎著の『みんなうんち』です。

最後に、私の国でも報道されましたが、東京の日本科学未来館では「トイレ？行っトイレ！」という展示が現在開催中です（2014/7/2 - 2014/10/5）。

普段、未来館で科学に関する堅苦しい展示しか見られないと思う傾向がありますが、「トイレ？行っトイレ！」の展示ではうんこの香水をかいだり、粘土で自分のうんこを作ったり、うんこの帽子をかぶって、滑り台で遊んだりできます。もちろん、私も行ってきました…

例を挙げ始めたらキリがありません。やはり何かが違う！その違いに対して好奇心を抱きました。冷静になってその現象を分析してみると、ある共通点があるということに気がつきました。それは著しい自然性です。

上記に書いたように、欧米では排泄が完全なタブーになっています。日本人が驚くかもしれませんが、便秘薬や下痢止めの CM すらあまりありません。あえて排泄について話すと、そのテーマは俗化されてしまって、日本人のような自然性に欠けることになります。一体なぜ日本人と欧米人との排泄の捉え方のギャップが生じるのでしょうか？

まず、宗教観に触れなければなりません。欧米で主要なキリスト教によれば「心身二元論」、つまり存在の本質である心とその本質をつかさどる身体はそれぞれ独立し

た実体だとします。そのため、未だにキリスト教圏の国では身体は心より劣っているという観点が一般的で、身体に関することは汚れていて、表に出すべきではないという傾向があります。例えば、温泉好きの私でも初めて裸で温泉に入ったのは日本に来てからです。もちろん、ヨーロッパにも温泉がありますが、入るときは水着のままです。

それに対して、日本の独自宗教である神道や仏教には身体の劣等性は一切見られません。神道と仏教は心身一元論、つまり心と身体が同一で、双方で存在の本質を成り立たせているという考え方をもちます。

次に、日本人の排泄の捉え方に影響を与えたのは自然観だと思います。その自然観がこの世の全てのものに神が宿るとする神道と関連して、日本人の自然への尊敬の原因になります。さらに、日本が昔から天災がよく起きる国のため、日本人は欧米人のように自然を支配するのではなくて、自然と共存するとよく言われています。その視点から類推すると、日本人は自然の一部である人間性をありのまま受け入れるのに対して、西洋人はそれは動物の特徴だと思って、自分もそうだとすることを否定して、自然より上位にいるという考えを持ちます。

少し脱線しますが、今考えてみればもう一つ不思議に思っていた日本社会の特徴も上記によって解明できるかもしれません。それは死の受け止め方です。

誰でもいつか死ぬ。それは当然のことですが、向こうでは死について話すことすら避ける傾向があります。しかし、日本ではある年になったら自分で遺影を準備することがよくあるでしょう。また、葬儀社のCMも数多くあります。それにもまして、最近終活、つまり人生の終わりのための活動がはやっていて、様々なイベントで入棺体験などできるようになっています。それはやはり自然を否定せずに、当たり前の流れをそのまま受け入れる証拠ではないでしょうか。

本題に戻りますが、最後に日本人の排泄に対する捉え方に影響を与えた要因として屎尿の利用を取り上げたいです。日本では鎌倉時代から肥料として人間の排泄物が用

いられていて、江戸時代には屎尿が価値の高い商品になって、販売が行われていたのです。今は想像しにくいと思いますが、貧乏な農家が屎尿が買えなかつたため、盗難事件もあったようです。

今はトイレへ行って用を足したら、水を流すだけで済むことによって人々が排泄物に接しなくなってきた、それを嫌がるようになったと思います。しかし、日本では排泄物の再利用のため長い間下水道がなく、日本人は便所で糞を溜めて、汲み取り業者に頼っていました。街中で肥桶を運ぶ人の光景が珍しくなかったようです。毎日排泄物を扱っていたことから日本人は糞に対する抵抗感が生まれなかったと考えられます。付言ですが、本当に素晴らしいシステムだったと思います。

屎尿が昭和まで農業に用いられていたのですが、戦後日本人の排泄に対する意識が変わり始めました。占領軍は衛生上、人糞肥料を問題視して、日本産の野菜は食べませんでした。野菜を賄うためにアメリカ占領軍専用の野菜を栽培する水耕農園が作られて、占領軍が日本に「近代化」という意味で屎尿の利用停止を促しました。そのため1950年代に化学肥料が主要な肥料となったり、下水道の工事が進んだりして、日本人がどんどん排泄物から離れていったと言っても、その歴史はやはりかなり浅いため、昔ながらの自然な捉え方はまだ残っていると思います。

ちなみに、日本の先端トイレが世界中に人気を集めていますが、多くの外国人が日本といえば最初に思い浮かぶのは侍・芸者・すしと…トイレと言っても言い過ぎではないでしょう。そのように思う外国人がびっくりするかもしれませんが、日本で水洗式トイレが普及したのは1959年以降で、ウォシュレットが登場したのは1980年です。トイレ先進国にしては割りと歴史が浅いですね。

最後に、私のエッセーを読んで、「この人、ふざけている」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、決してそうではありません。実は、今年大阪大学・人間科学研究科の博士課程に入って、このテーマを研究しているのです。

入学試験のとき、一番重要なのは研究テーマなので、確かにテーマ選びに迷いまし

た。しかし、周りの人に変人と呼ばれても、自分が興味深いと思う研究しないと意味ないと決めて、このテーマを提出して、幸いなことに無事に進学しました。

少し大げさに聞こえるでしょうが、他人にどう思われようが、やはり自分が信じていることはやるべきですね。これからも頑張ります！

## 参考文献

*Making Great Breakthroughs - All about the Sewage Works in Japan.* (2002) Japan Sewage Works Association.

Nussbaum, Martha. (2004) *Hiding from Humanity, Disgust, Shame and the Law.* Princeton University Press.

Sugiyama Lebra, Takie. (2004) *The Japanese self in cultural logic.* University of Hawaii Press.

Susan B. Hanley. *Urban Sanitation in Preindustrial Japan.* The Journal of Interdisciplinary History, Vol. 18, No. 1 (Summer, 1987). MIT Press. pp. 1-26.

大田区立郷土博物館（編集）（1997）『トイレの考古学』東京美術.

五味太郎（1977）『みんなうち』福音館書店.

末本文美士（2006）『日本宗教史』岩波書店.

村上春樹（1997）『ねじまき鳥クロニクル』新潮社.

李家正文（1988）『廁まんだら』増補新装版 雪華社.